

令和5年6月21日

各報道機関文教担当記者 殿

JST「次世代科学技術チャレンジプログラム」(小中高型)に採択 全国小中高生・高専生を対象に次世代の傑出した人材を育成

このたび、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が実施する**令和5年度「次世代科学技術チャレンジプログラム」(小中高型)に、本学の事業が採択されました。**小中高型には9件の申請があり、3大学(金沢大学、東京大学、東北大学)が採択されました。

同プログラムは、JSTがこれまで実施したグローバルサイエンスキャンパス(GSC)とジュニアドクター育成塾を発展的に統合し、小中高校生を対象とした長期的かつシームレスな育成プログラムで、今年度より新規に開始された事業です。

本学の事業では、**主に北陸圏の大学、高専、教育委員会、産業界と連携し、全国の小中高校生を対象に最長5年間の長期にわたる教育・研究活動を通じて、好奇心を広げつつ広範な科学知識と技術を修得し、主体性と探究力を飛躍的に向上させる場を提供**します。

こうした場での学びにより、**科学技術をはじめさまざまな分野の発展や世界の課題の解決を先導できるイノベーション人材の育成**を行います。

【参考】

- ・次世代科学技術チャレンジプログラム 令和5年度採択機関の決定について
(国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST))
<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1625/index.html>
- ・JST次世代人材育成事業『次世代科学技術チャレンジプログラム』について
<https://www.jst.go.jp/cpse/stella/>

【本件照会先】

理工系事務部学生課 中村
Tel : 090-1631-4389
076-234-6860

【広報担当】

金沢大学広報戦略室 川田
Tel : 076-264-5024

背景

現代の子供：ネット上に溢れる情報を基に物事を捉えることが多い。

自ら考え、問題の解決方法を探究する力が低下

イノベーションを起こす人材の不足、科学技術立国日本の存続の危機



目的

個人の高い**意欲や資質を発掘し伸ばす**取り組みを

金沢大学(Kanazawa Univ.)で実施

1. 本学のジュニアドクター育成塾(**JD**：小中型)と
グローバルサイエンスキャンパス(**GSC**：高校
型)を**融合・改新し、KU_STELLAへ進化**

2. 蓄積した**ノウハウを広く小中高校へと展開**



ジュニアドクター
育成塾



**科学・技術を理解・駆使して自ら課題を発見し、
主体的に解決方法を探究できる傑出した人材を育成**

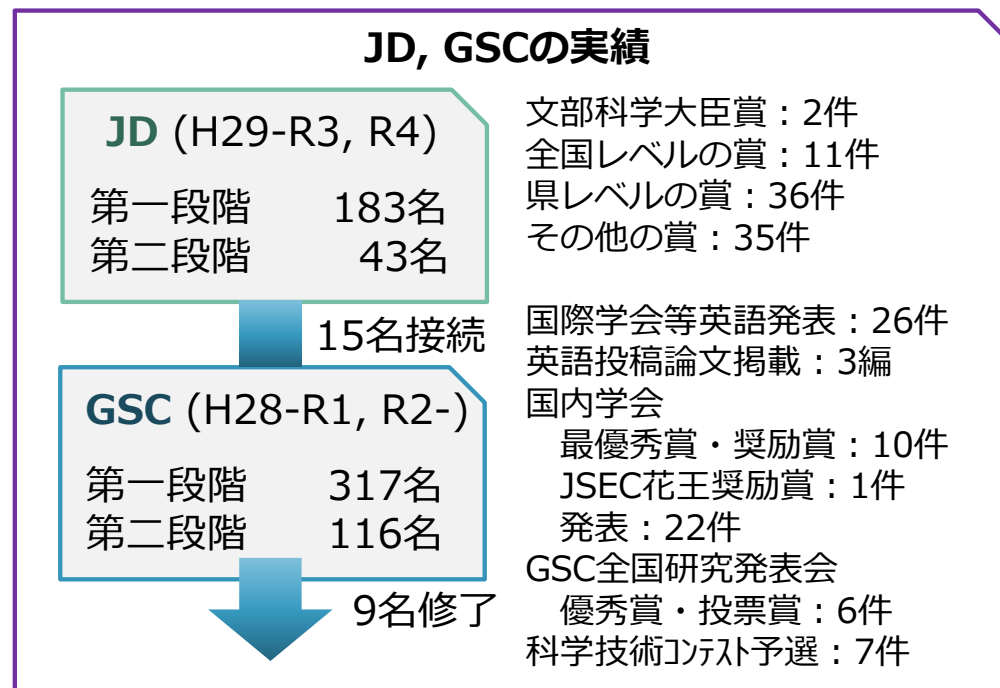


金沢大学の強み・特徴

- ▶ **地域と世界に開かれた教育重視の研究大学**
- ▶ 全学的な**グローバル化**(SGU)
- ▶ 文理融合型のSTEAM教育を拡充(知識集約)
- ▶ 世界**トップレベルの研究拠点**の形成
- ▶ **高大院連続型支援システム**の構築

本学のJD、GSCの実績・特徴

- ▶ **多くの修了生**を輩出
- ▶ 15名の**継続**、9名が**両方を修了**
- ▶ 発表、受賞、投稿で**高い実績**
- ▶ 国公立**大学への進学**



提案するプログラムの特徴

- ① 科学に関連する**高度で幅広い分野**をカバー
- ② 真の科学**研究の進め方・考え方**を修得
- ③ 小中高大院接続による**研究者への歩み**
- ④ 立場を超えた**グローバルなコミュニケーション力**を修得
- ⑤ 早期に**好奇心・自発性**を発掘し、**長期育成**により、能力を最大に伸長

目標

自身が追及するフィールドで**将来イノベーション**を起こし、**科学技術を含む様々な分野の発展**や、**人類が直面する世界的課題の解決**に貢献する人材を輩出

未来の科学技術
イノベーター

育てたい人材像と持つべき資質・能力

小中生に求める3つの能力(I, II, III)を
高校生では7つの能力に発展・拡大。

小中生育成プログラム



自ら科学・技術に対して
課題意識を持ち、主体的に
問題解決を行い探究する人材



科学・技術を
理解・駆使して
自ら課題を発見し、
主体的に解決方法を
探究できる人材

高校生育成プログラム



大学院進学まで見据えた
「簡単にへこたれない
尖ったキワモノ」